

事務事業評価表 平成22年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 子どもの可能性を伸ばす教育の充実
 基本事業 教育内容の充実

事業名 **えべつチャレンジ塾モデル事業**

[0809]

部名	教育部	事業開始年度	平成19年度	実施計画事業認定	非対象
課名	学校教育支援室 学校教育課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>指定モデル地区小中学校の児童生徒</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>児童生徒の勉学意欲が向上し確かな学力が定着する。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>放課後及び休日などに、児童生徒の英語検定や漢字検定などへの挑戦に向けた学習支援を行う</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	指定モデル地区小中学校の児童生徒数	人	87	82	74	42
対象指標2						
活動指標1	学習支援を受けた児童生徒数	人	57	48	36	42
活動指標2	学習支援の時間数	時間	237	171	221	350
成果指標1	勉強が楽しくわかりやすくなったと感じる児童生徒の割合	%	74	63	58	74
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	1,427	821	744	403
正職員人件費 (B)		千円	837	836	830	833
総事業費 (A) + (B)		千円	2,264	1,657	1,574	1,236

費用内訳	
21年度	報酬 713千円、委託料 31千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	北海道教育庁が実施する「小・中学校学力STEPアッププロジェクト(Eプロジェクト)」の一つとして江別市が指定を受け、江北地域をモデル地区に選定し事業を開始した。	事業を取り巻く環境変化	平成22年度からは、北光小のみとなる
--------	--	-------------	--------------------

21年度の実績による事業課の評価(7月時点)

(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか?市の役割や守備範囲にあった目的ですか?

義務的事務事業

妥当である

妥当性が低い

理由
・
根拠は?

児童生徒の学力向上につなげるため。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか?

貢献度大きい

貢献度ふつう

貢献度小さい

基礎的事務事業

理由
・
根拠は?

確かな学力の定着が求められる中、より多くの時間をかけて学習支援を行うことは、児童生徒の学力向上につながる。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか?計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか?

あがっている

どちらかといえばあがっている

あがらない

理由
・
根拠は?

学方向上の取組が推進されており、基礎学力の向上がみられる。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか?その理由は何ですか?

成果向上余地 大

成果向上余地 中

成果向上余地 小・なし

理由
・
根拠は?

学習支援の時間数を増やせば、勉強の理解度が深まる。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか?(受益者負担含む)

ある

ない

理由
・
根拠は?

ボランティア等の活用